大自然の乳房から

水谷年恵子

赤ちやんを産んだお母さんの體内から、世にもおいしいお乳が出る。そのお乳が此の世のどんな養分よりも、一番赤ちやんの身體にはよい滋養になる。考へて見ると不思議なことである。慈愛の權化のお母さんから、此の上もないおいしい滋乳が、赤ちやんの爲に湧出る。お母さんに抱かれて、そのお乳を吸つて、赤ちやんは伸び〳〵と育つて行く、何と言ふ微妙な天の攝理であらう。

お母さんのお乳に比べたいものが一つある。それは果物である。大地の限りない慈しみが、えも言はれぬ甘味と、したゝるやうな色艶とを持つた果物となつて人の世に現はれるやうに思はれる。うまい葡萄——うまい水蜜桃——うまい蜜柑——うまい林檎——みんな、みんな大地の乳房から滾々と湧出す滋乳である、滋味である。口に含んで嚥下す時、大地の無量の愛が胸に通ひ、大自然の新鮮な生命が心に泌みる。

赤ちやんがお母さんに抱かれてお乳を飲む時、限りなき安らかさと、限りなき喜びとにしたると同樣に、大地の懷に這入つて、みづ〳〵しい果物を味ふ時、人は名狀しがたい快さと樂しさとに滿たされるのを覺えるのである。太古には木の實を食べて生命を全うした者が少くなかつたであらう。今も世界の何處かには果物を食べて生きてゐ

る人があるであらう。穢れの無い、僞りの無い大地といふ慈母の體内から、ほとばしり出る滋乳によつて生命を育まれる時、人は大自然の赤ん坊となるのである。

紫色に熟した葡萄の房が、千房八千房垂れさがつた葡萄棚の下で、大地の乳房から、自然の甘露を飲む者は幸である。くれなゐに輝く林檎の、枝もたわわに連り滿ちた大樹に攀ぢのぼつて、大地の體内から湧出る自然の滋味を味ふ者は幸である。

亭々と聳えてみ空の星を掃ふ椰子の樹のほとりに、大いなるその實を割つて、自然の母のかんばしい乳を飲む者は何と言ふ幸福者であらう。甘い香のたゞよふ野の懷に坐して、メロンの滴る慈味に舌鼓打つ者は何といふ幸福者であらふ。

ドン底生活に在る人々の兒等を敎へる先生から聞いた話がある。自分の父の姓を知らず、朝飯も晝飯も食べずに靑ざめてゐる子供等が、學校で時に御馳走になることがある。彼等が貰つて一番喜ぶ食べ物は何であらうか、それは白い御飯でもなく、甘いお菓子でもなくて、美しい色をした果物であるといふ。

黃金色に輝く蜜柑の一つづゝか、又は紅に染まつた林檎の一づゝつをその子供等に與へて見よ、子供等の顏には忽ち天使に見るやうな喜びの色が現はれるであらう。子供等はその蜜柑を又は林檎を、掌に載せて、と見、かう見、撫で、さすり、香を嗅ぎ、果皮を嚙め、愛撫に愛撫を重ねて、なほかつ他く事を知らない。その果皮を剝く時は又一層樂しみ樂しんで、少しづゝ徐々に剝いて、その果物から受ける和やかな、豐かなほがらかな喜びにしたるといふことである。

出來ることなら、その子供等を甲斐の葡萄畑へ伴れて行つてやりたいものである。何萬房となく

垂れた葡萄を思ふがまゝに採つて紫に匂ふつぶらな珠から、大地の母の甘い乳を思ふ存分吸はせてやりたい。出來ることなら、その子供等をキャリホルニヤのオレンヂ畑へ伴れて行つてやりたいものである。幾億となく實つたオレンヂを勝手にもいで、夕陽の色に熏る玉から自然の母のうまい乳を思ふ存分飲ませてやりたい。

かういふ特別な子供に限らず、地上のあらゆる子供は、母の乳を慕ひ求めるやうに、うるはしい果物に欽慕の情を寄せるに違ひない。子供のある家には果樹のあることが望ましいことであらう。子供の集まる幼稚園には、色々の果樹の植ゑられることが願はしい事ではあるまいか。

山口縣保育會第五回總會

山口市に於て、左記日程通り開催

第一日 八月二十日

午前中 講師 縣設講習會聽講 東京女子師範學校教授倉橋惣三先生

午後一時ヨリ 評議員會

二、園長會議

並に保姆唱歌遊戯研究

第二日 八月二十一日

午前中 聽講

一、午後一時ヨリ 總會

二、國歌齊唱 同齊唱

三、勅語拜讀

四、式辭（理事）

五、縣會報告

六、縣學務訓示

七、市長挨拶

八、講演 講師倉橋惣三先生

九、研究發表

十、協議

第三日 八月廿二日

午前中 聽講 午後見學

以上

○研究發表題

イ、觀察ノ指導方法ニ就テ　柳井幼稚園

○談話題

イ、幼稚園ニ於テ遊戯チナサヌ兒ノ取扱方法承リタシ　大島幼稚園

ロ、幼兒期ノ金錢教育ニ關スル御意見承リタシ　柳井幼稚園

ハ、活潑勝氣ナル兒童ト怯懦内氣ナル兒童トノ指導方法ニ就テ承リタシ　幼稚園ニ於テ畫キ方如何ナル程度ニ指導イタサル、カ承リタシ　鞆生幼稚園

以上